

11:1 ソロモン王は、ファラオの娘のほかにも多くの異国人の女、すなわちモアブ人の女、アンモン人の女、エドム人の女、シドン人の女、ヒッタイト人の女を愛した。

11:2 この女たちは、【主】がかつてイスラエル人に、「あなたがたは彼らの中に入らない。彼らをあなたがたの中に入れてもいけない。さもないと、彼らは必ずあなたがたの心を転じて彼らの神々に従わせる」と言われた、その国々の者であった。しかし、ソロモンは彼女たちを愛して離れなかった。

11:3 彼には、七百人の王妃としての妻と、三百人の側女がいた。その妻たちが彼の心を転じた。

11:4 ソロモンが年をとったとき、その妻たちが彼の心をほかの神々の方へ向けたので、彼の心は父ダビデの心と違って、彼の神、

【主】と一つにはなっていなかった。

11:5 ソロモンは、シドン人の女神アシュタロテと、アンモン人の、あの忌むべき神ミルコムに従った。

11:6 こうしてソロモンは、【主】の目に悪であることを行い、父ダビデのように【主】に従い通さなかった。

11:7 当時ソロモンは、モアブの忌むべきケモシュのために、エルサレムの東にある山の上に高き所を築いた。アンモン人の、忌むべきモレクのためにも、そうした。

11:8 彼は異国人であるすべての妻のためにも同じようにしたので、彼女たちは自分の神々に香をたき、いけにえを献げた。

11:9 【主】はソロモンに怒りを発せられた。それは彼の心がイスラエルの神、【主】から

離れたからである。主が二度も彼に現れ、11:10 このことについて、ほかの神々に従って行ってはならないと命じておられたのに、彼が【主】の命令を守らなかったのである。

11:11 そのため、【主】はソロモンに言われた。「あなたがこのようにふるまい、わたしが命じたわたしの契約と掟を守らなかったので、わたしは王国をあなたから引き裂いて、あなたの家来に与える。

11:12 しかし、あなたの父ダビデに免じて、あなたが生きている間はそうしない。あなたの子の手から、それを引き裂く。

11:13 ただし、王国のすべてを引き裂くのではなく、わたしのしもべダビデと、わたしが選んだエルサレムのために、一つの部族だけをあなたの子に与える。」

強国に囲まれたイスラエルでしたから、世の常識から考えるなら同盟関係は必要でした。しかしそのために軍備が必要になり、また戦いに巻き込まれ多くが滅んでいったのが当時の国々でした。

ですから神様は、同盟に頼るよりも神ご自身に頼るようと、昔から何度もイスラエルに命じられました。またそのように従うときはイスラエルに恵を施したのです。

しかしソロモンは同盟のために異教の国々から妃を受け入れました。それが異教と偶像の源となりました。ソロモンの心はさらに主のみこころから離れて、自分の快樂のために王妃やそばめを増やしていったのです。

そのような不従順はさらなる不従順を生み出し、ソロモンは神々にいけにえまでささげたのです。彼の造った神殿で主へのいけにえもささげたのですが、彼は偶像の神々にも仕えたのです。

クリスチャンもまた同じで、神に仕えつつ神以外のものを主のようにして仕えてしまうということがあり得るのです。そのような生き方で、主から与えられた王国のような大切な人生が引き裂か

れないようにしましょう。今ある恵をくださったのが誰であるかを忘れないようにして、感謝しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

